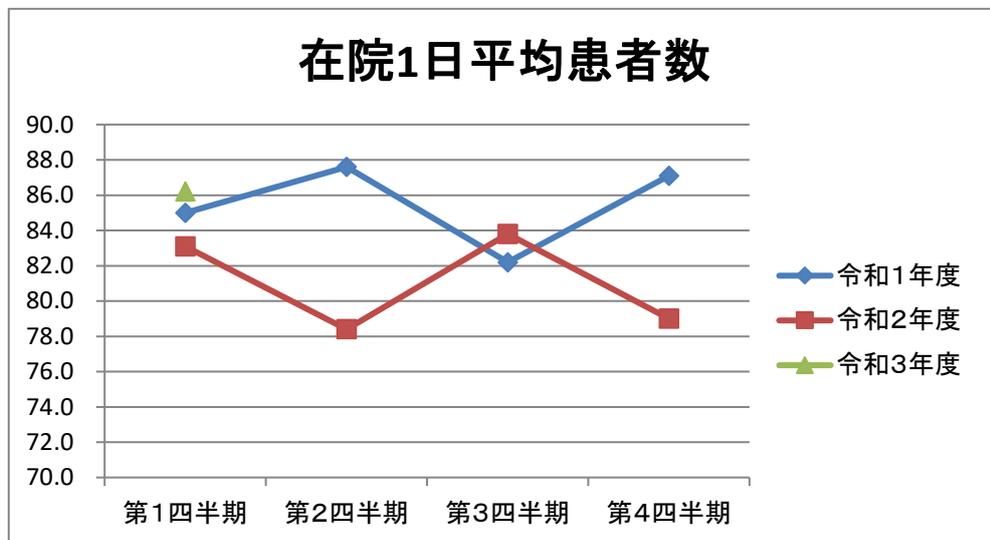


17. 在院1日平均患者数

1日あたり在院患者数の平均です。(病床数:90)

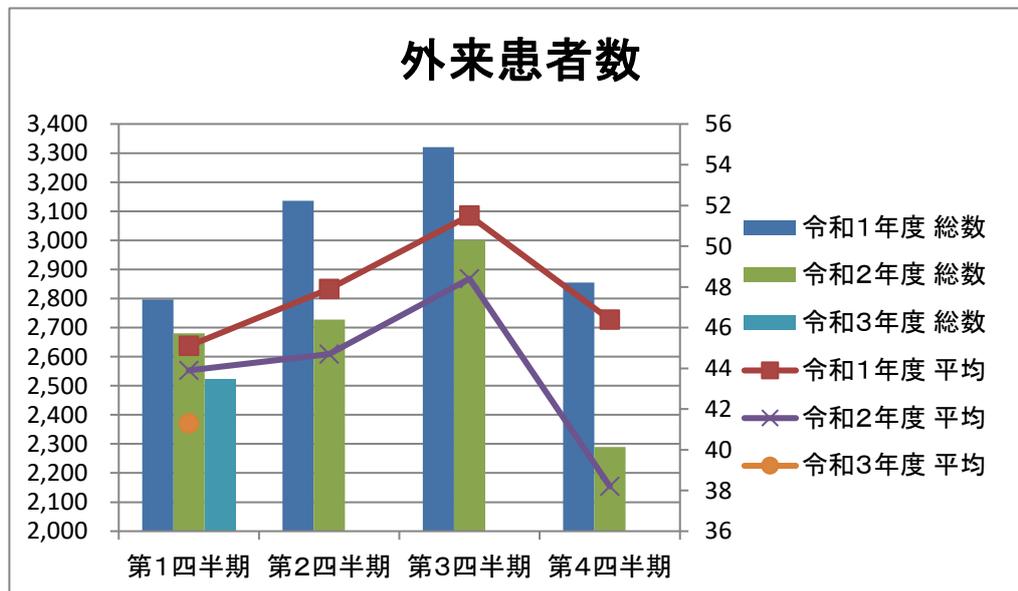
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	85.0	87.6	82.2	87.1	85.5
令和2年度	83.1	78.4	83.8	79.0	81.1
令和3年度	86.2				



18. 外来患者数

外来患者(延べ数): 診療日(開院日)の外来患者数の1年分を合計したものです。
1日平均外来患者数: 延べ外来患者数を診療実日数で割ったもの。

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	総数	2,797	3,136	3,320	2,855	12,108
	平均	45.1	47.9	51.5	46.4	47.8
令和2年度	総数	2,680	2,728	3,000	2,289	10,697
	平均	43.9	44.7	48.4	38.2	43.8
令和3年度	総数	2,522				
	平均	41.3				

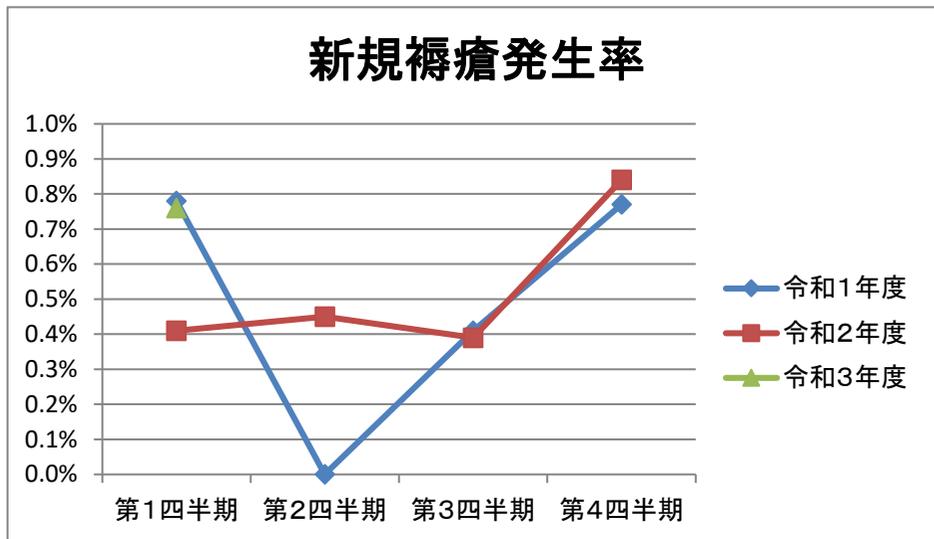


19. 新規褥瘡発生率

褥瘡とはいわゆる床ずれのことで長期にわたり寝たきりになった場合、体と接触局所で血行不全となり、周辺組織が腐れる状態です。褥瘡の発生要因として栄養不良、全身状態悪化、長時間の圧迫、麻痺などがあります。褥瘡は感染を招き、さらに身体の活力を低下させるので予防が必要です。さらに褥瘡の有無は介護、看護の質をはかるものさしといわれています。

式) 褥瘡発生率 = 発生者 ÷ 月末日(調査日)入院患者数 × 100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	0.78%	0.00%	0.41%	0.77%	0.49%
令和2年度	0.41%	0.45%	0.39%	0.84%	0.52%
令和3年度	0.76%				

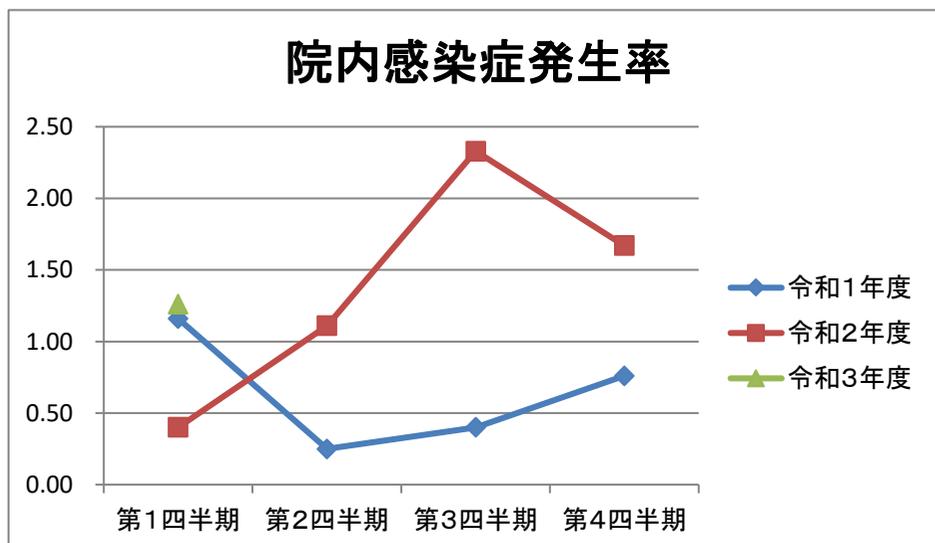


20. 院内感染症発生率

院内感染とは、病院や医療機関内で新たに細菌やウイルスなどの病原体に感染することをいいます。令和3年度は院内における新型コロナウイルスのクラスター発生防止を目標に掲げ、感染対策委員会主導のもと、職員一丸となり業務にあたっています。

式) 院内感染発生率 = 細菌検出数 ÷ 総入院患者数 × 1000 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	1.16	0.25	0.40	0.76	0.64
令和2年度	0.40	1.11	2.33	1.67	1.39
令和3年度	1.26				

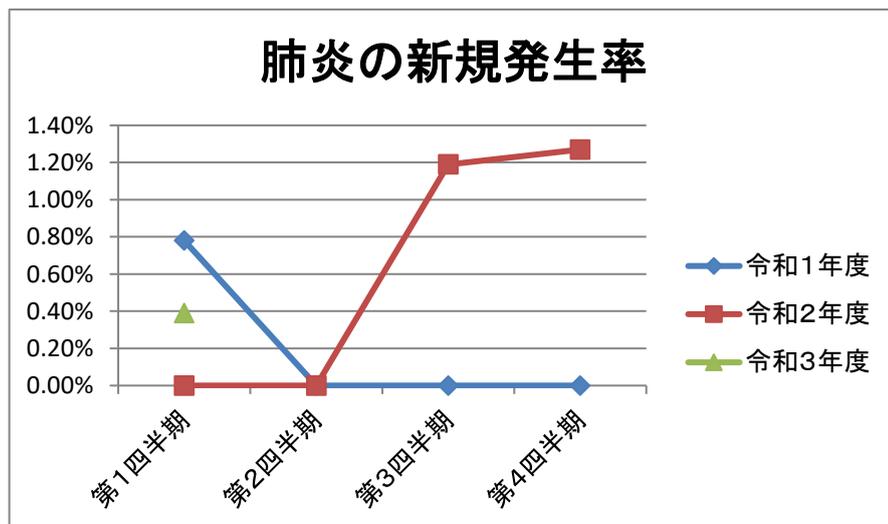


21. 肺炎の新規発生率

当院入院中の肺炎の新規発生率です。

式)肺炎の新規発生率＝一月あたりの肺炎新規発生患者数÷1日あたりの平均入院患者数×100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	0.78%	0.00%	0.00%	0.00%	0.19%
令和2年度	0.00%	0.00%	1.19%	1.27%	0.62%
令和3年度	0.39%				



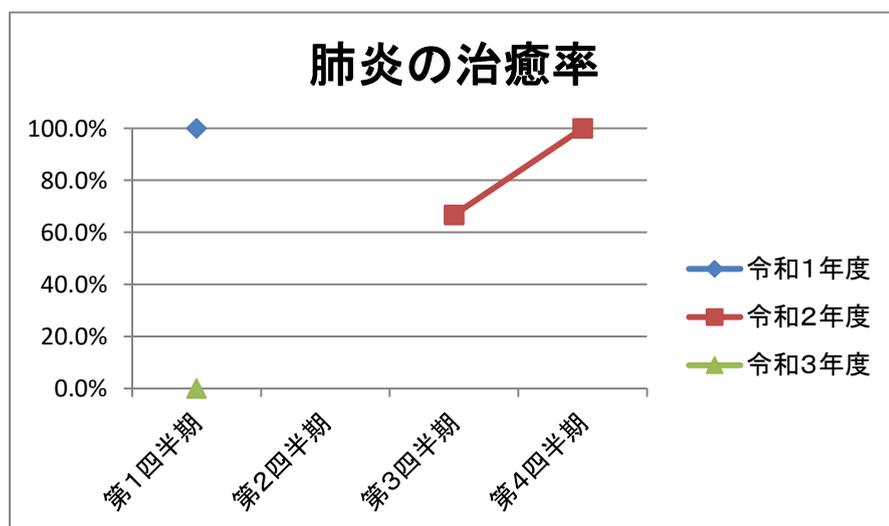
22. 肺炎の治癒率

一定期間内に肺炎の治療が行われた患者さまのうち、その期間内に治癒した患者さまの割合です。(一定期間＝1ヶ月)

式)肺炎治癒率＝一月あたりの治癒が確認された患者数÷一月あたりの治療が確認された患者数×100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	100.0%				100.0%
令和2年度			66.7%	100.0%	85.7%
令和3年度	0.0%				

※表空白は該当患者なし

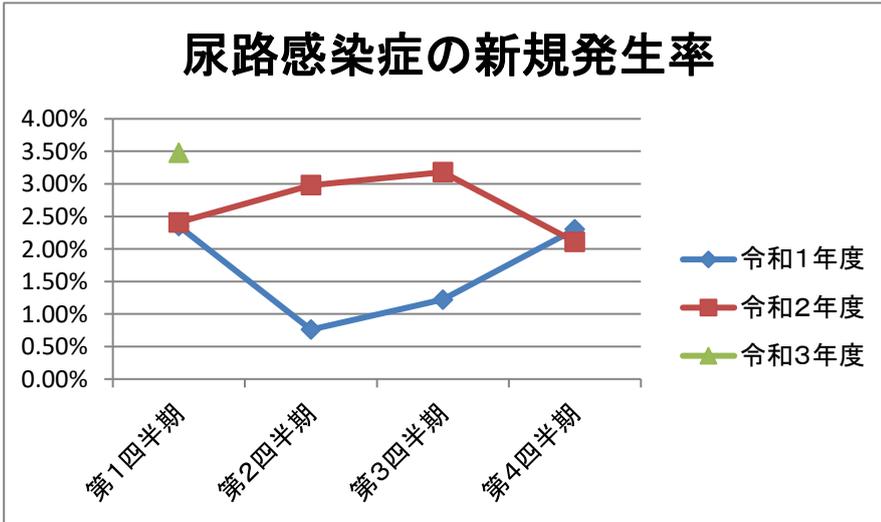


23. 尿路感染症の新規発生率

当院入院中の尿路感染症の新規発生率です。

式) 尿路感染症の新規発生率＝一月あたりの尿路感染症新規発生患者数÷1日あたりの平均入院患者数×100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	2.35%	0.76%	1.22%	2.30%	1.66%
令和2年度	2.41%	2.98%	3.18%	2.11%	2.67%
令和3年度	3.48%				

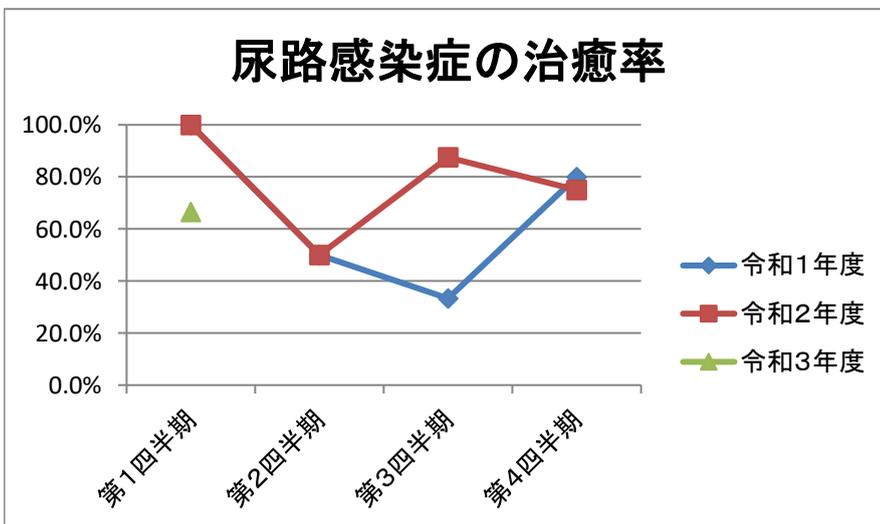


24. 尿路感染症の治癒率

一定期間内に尿路感染症の治療が行われた患者さまのうち、その期間内に治癒した患者さまの割合です。(一定期間＝1ヶ月)

式) 尿路感染症治癒率＝一月あたりの治癒が確認された患者数÷一月あたりの治療が確認された患者数×100 (%)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
令和1年度	100.0%	50.0%	33.3%	80.0%	78.6%
令和2年度	100.0%	50.0%	87.5%	75.0%	77.3%
令和3年度	66.6%				



25. 身体抑制実施件数

治療上必要に応じてチューブ・ドレーン類を使用していますが、患者さんの状態によっては、自己抜去の危険性や転倒・転落の危険性があります。そのような事態になりますと患者さんの生命の危険性、あるいは外傷・骨折の危険性があり、さらなる処置が必要となる可能性があります。そのような事態を未然に防げるように、行動制限を行う場合があります。安易に身体抑制をするのではなく、それに変わる方法がないか十分検討を行い、治療上やむを得ない場合に実施しております。身体抑制の実施件数を減少させる方法や短時間で解除できる努力をいたします。※マットセンサー（離床センサー）のみ使用は件数より除外

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間	月平均
令和1年度	36	23	25	24	108	9.0
令和2年度	29	51	55	23	158	13.2
令和3年度	43					

